



2017年12月1日

昭和産業鹿島工場におけるコージェネレーションシステムを活用した ESCOサービス事業（※1）の運用開始について

昭和産業株式会社
日本ファシリティ・ソリューション株式会社

昭和産業株式会社（代表取締役社長 新妻一彦、以下「昭和産業」）と、日本ファシリティ・ソリューション株式会社（代表取締役社長 柴田祐亮、以下「JFS」）は、昭和産業鹿島工場（茨城県神栖市）におけるコージェネレーションシステム（以下、CGS）のリニューアル工事を完了し、本日、運用を開始いたしました。

本事業は、東京電力エナジーパートナー株式会社（代表取締役社長 川崎敏寛、以下「東電EP」）の提案により、工場の操業に最適なエネルギー供給が実現したもので、東電EPの100%子会社であるJFSがESCOサービスとして実施いたします。JFSによる食品会社向けの大型CGSを活用したESCOサービス事業は初めての事例となります。

本事業は、優れた発電効率・環境性能を持つガスエンジンCGS（都市ガス燃料、発電出力7,800kW、発電効率49.5%）をJFSが昭和産業鹿島工場内に設置し、同工場内で必要とされる電気と熱（蒸気や温水）を供給することでさらなる省エネルギー推進、CO₂排出量削減を実現するもので、設置されたCGSと工場内の既存発電所を組み合わせることで工場における電力の自給率は70%となります。

なお、本事業は、「平成28年度エネルギー使用合理化等事業者支援補助金（※2）」に採択されております。

昭和産業は、今後もエネルギーの利用効率を向上させ、省エネルギーとCO₂排出量削減を推進してまいります。

JFSは、今後も省エネルギー・省コストに資するエネルギーサービスのご提供を通じて、社会に貢献してまいります。

以上

※1 ビルや工場の省エネルギー改修に関し、技術（設計・施工・メンテナンス・効果検証）、資金調達、省エネルギー効果の保証などをワンストップにて提供するサービス

※2 民間事業者等による省エネルギー設備・技術等を導入する事業を支援する経済産業省補助金